

**2025年以降大阪での「空飛ぶクルマ」の事業実装に向けて
「空飛ぶクルマ都市型ビジネス創造都市推進事業」を
大林組・関西電力・近鉄 GHD・東京海上日動とともに実施**

「空飛ぶクルマ」（※1）および「物流ドローン」を開発する株式会社 SkyDrive（本社：愛知県豊田市、代表取締役 CEO 福澤知浩、以下「当社」）は、大阪での「空飛ぶクルマ」の事業展開に向けて、株式会社大林組（本社：東京都港区、代表取締役社長：蓮輪賢治、以下「大林組」）、関西電力株式会社（本店：大阪府大阪市、代表執行役社長：森望、以下「関西電力」）、近鉄グループホールディングス株式会社（本社：大阪府大阪市、代表取締役社長：小倉 敏秀、以下「近鉄 GHD」）、東京海上日動火災保険株式会社（本店：東京都千代田区、取締役社長：広瀬伸一、以下「東京海上日動」）と共同で、社会受容性向上に向けた取組みとして、「大阪府内における空飛ぶクルマのある未来像啓発」（以下、本事業）を実施したことをお知らせいたします。本事業は、大阪府の「令和4年度 空飛ぶクルマ都市型ビジネス創造都市推進事業補助金」事業に採択されています。

**大林組****SKYDRIVE****関西電力***power with heart***KINTETSU
GROUP HOLDINGS****東京海上日動****■ 本事業開始の背景**

当社は、空飛ぶクルマの機体メーカーとして、2025年の大阪・関西万博を契機に、大阪ベイエリアから、将来的には大阪広域での事業実装を目指しています。この実現のためには、社会受容性醸成が必要不可欠であり、地域住民に対して正しい情報を発信し、空飛ぶクルマの将来像をともに形成していく活動を、様々なステークホルダーと連携しています。

2021年10月には空飛ぶクルマの認知度ならびに社会受容度を確認し、大阪ベイエリアにおける「空飛ぶクルマ」を活用したエアタクシーサービスの事業可能性を検証するため、「空飛ぶクルマによるエアタクシー事業性調査」を実施しました。（※2）その後も、地域住民の理解促進のために大阪各地での講演等を行ってきました。この度、昨年引き続き、さらに一歩踏み込んだ取組みとして5社共同で事業を推進する運びとなりました。

■ 本事業の概要

本事業では、大阪府民の生活者を中心に招待し、「空飛ぶクルマのある未来」をテーマとしたセミナー、ワークショップ、パネル展示を実施しました。

また同時に、来場者に現地アンケートを実施することで、空飛ぶクルマの認知度ならびに社会受容度を確認しました。

	大阪ベイエリア	堺市	八尾市	枚方市
実施日	2022年11月5日	2022年11月26日	2022年12月10日	2022年12月11日
実施場所	ATC ITM棟6F ソフト産業プラザ TEQS	堺市立ビッグバン 子ども劇場	大正コミュニティ センター 集会室 1・2	ビーゴ (ビオルネ5F)
回答者数	計368名 親：166名 子ども：202名			
	親：33名 子ども：36名	親：37名 子ども：45名	親：37名 子ども：48名	親：59名 子ども：73名
調査方法	紙アンケート調査			
調査対象	親子ワークショップの参加者			



セミナーの様子



パネル展示の様子



ワークショップにて「空飛ぶクルマのある未来」のスケッチをしている様子

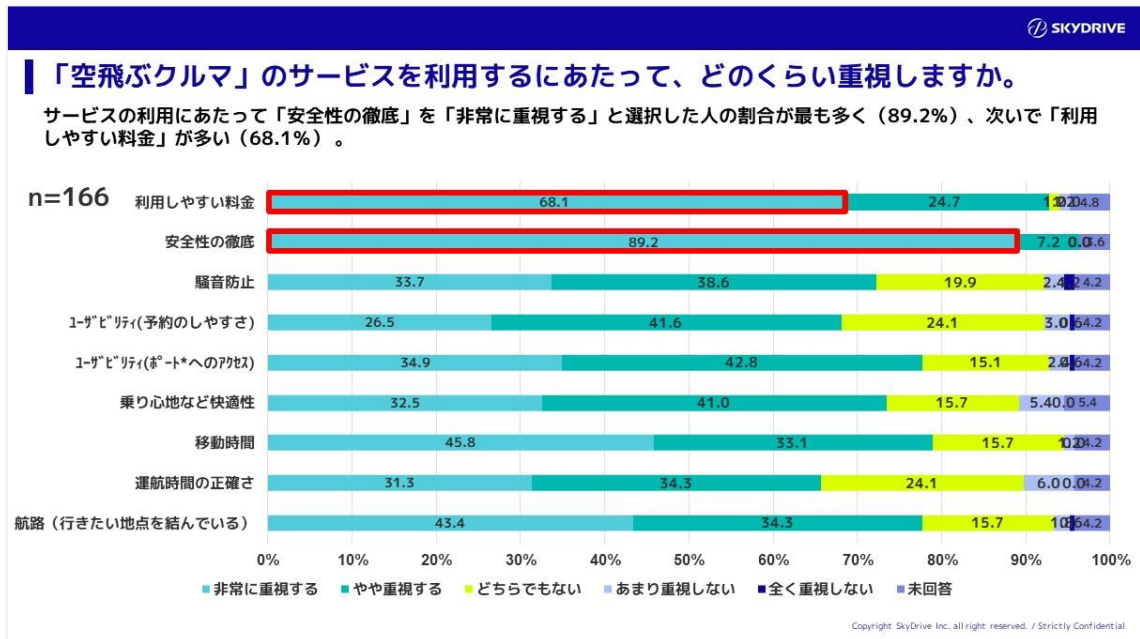
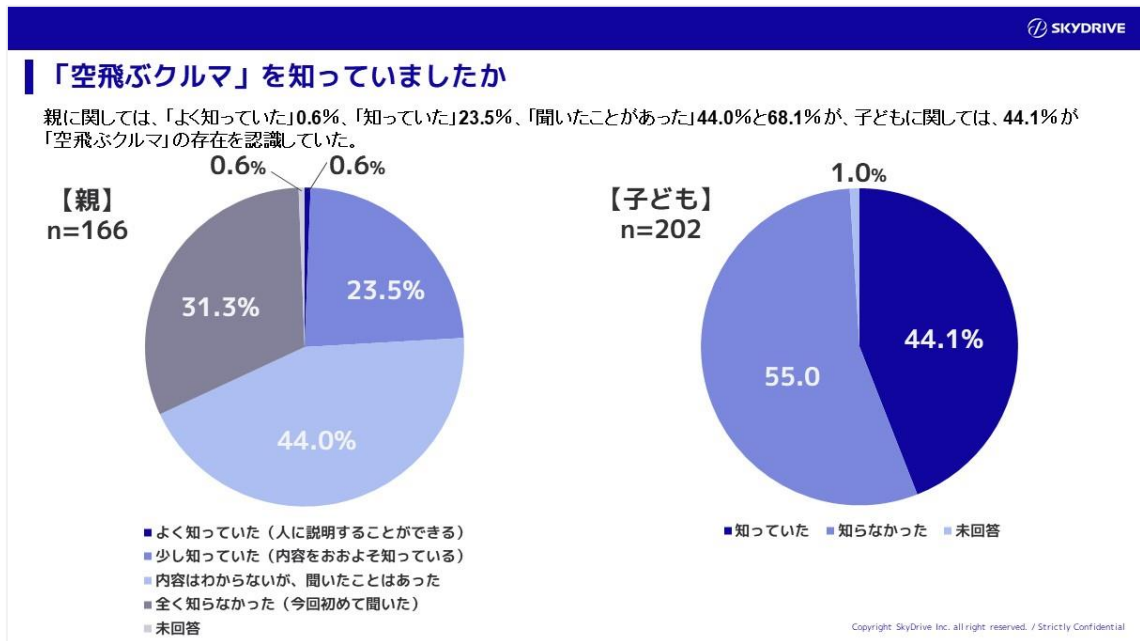


ワークショップ後の様子

■ 調査サマリー

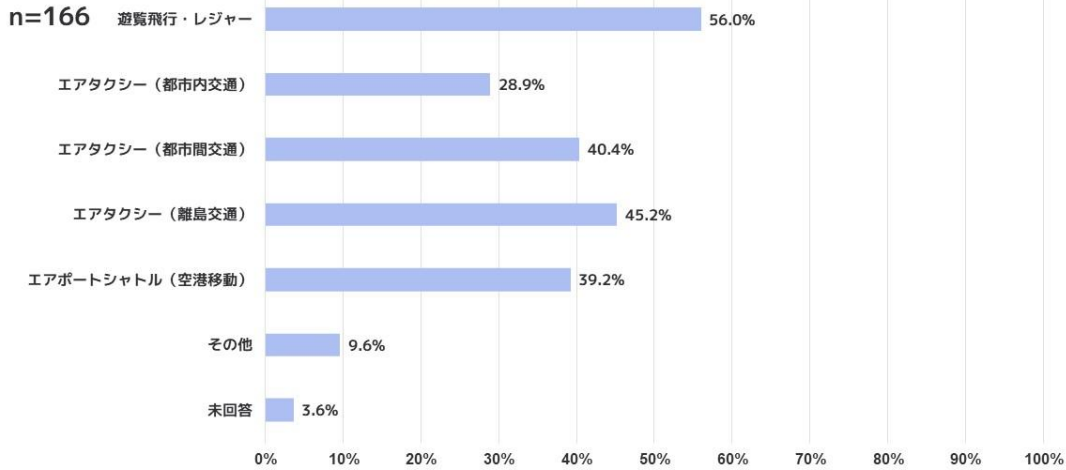
- 大人は約 70%、子どもは約 45%が、空飛ぶクルマの存在を認識。
- 空飛ぶクルマのサービス利用にあたり、重要項目上位 3 つは「安全性の徹底」「利用しやすい料金」「移動時間」。
- 空飛ぶクルマのサービス利用にあたり、希望場面上位 3 つは「遊覧飛行・レジャー」「エアタクシー（離島交通）」「エアタクシー（都市間交通）」。
- 空飛ぶクルマにより期待する社会課題解決上位 3 つは「移動時間の削減」「離島や山間部などへの物流・交通の利便制向上」「交通渋滞の解消・緩和」
- 大阪ベイエリアでの空飛ぶクルマのサービス利用について、エアタクシー、遊覧共に約 80%が利用を希望。

■ 調査詳細



「空飛ぶクルマ」のサービスをどのような場面で利用したいですか

「空飛ぶクルマ」のサービスを利用したい場面として「遊覧飛行・レジャー」を選択した人が最も多い（56.0%）。



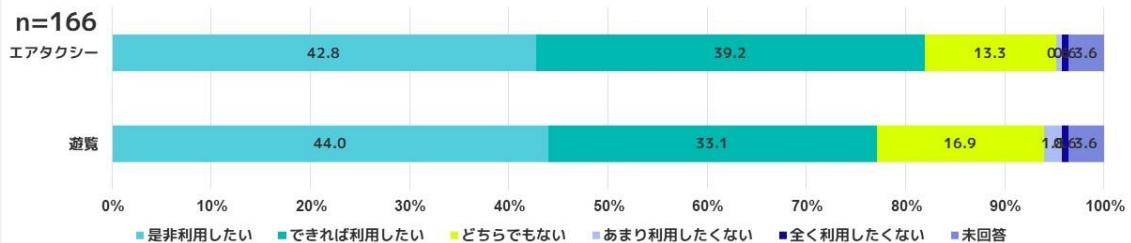
「空飛ぶクルマ」の実現によって、それぞれの社会課題解決にどの程度期待していますか

「空飛ぶクルマ」により解決されることを「非常に期待している」を選択した人の割合は、「移動時間の削減」が最も多く（56.6%）、「電力モビリティによるCO2排出の削減」が最も少ない（32.5%）。



大阪ベイエリアでの「空飛ぶクルマ」のサービス(エアタクシー/遊覧)を利用したいですか

大阪ベイエリアでの「空飛ぶクルマ」のサービスについて、回答者の約8割が「エアタクシー」、「遊覧」として「利用したい」と回答している。



上記回答を選択した理由をそれぞれ教えてください（自由回答）※一部

エアタクシーについて

- 移動時間の短縮
- 渋滞緩和
- 移動が楽になりそう/子どもがいると乗り換えが大変なので便利そう
- 車酔いの解消
- 観光客にはいい/観光スポットの移動がしやすくなりいろいろまわれそう

遊覧について

- 楽しそう
- 眺めがよさそう/景色を楽しみたい
- 興味がある
- (一度は) 乗ってみたい/体験・経験したい
- 子どもに経験させたい/子どもが喜びそう
- 友人などのおもてなしに使えそう
- ヘリコプターより安い

本プレスリリースでは調査結果の一部を公開しています。

■ 実施体制

本事業は下記の通り 5 社で役割分担をし、実施しました。

SkyDrive	・ シンポジウム設計・実施（登壇含む） ・ パネル展示等のコンテンツ作成 ・ 空飛ぶクルマ展示機体の手配・関連する調査内容作成
大林組	・ パネル展示等のコンテンツ作成
関西電力	・ パネル展示等のコンテンツ作成
近鉄GHD	・ シンポジウム企画・運営 ・ パネル展示等のコンテンツ作成
東京海上日動	・ 大阪エリアにおける社会受容性調査の全体設計・取り纏め ・ パネル展示等のコンテンツ作成

今後、2025 年以降の大阪での事業実装の実現に向けて、本調査結果を大阪府を始めとする関係者に共有し、空飛ぶクルマの機体開発と事業開発にフィードバックして参ります。また、引き続き、地域住民や地元企業、及び周辺各種団体等の理解促進のため、安全性の向上ならびに社会受容度を高める活動を推進して参ります。

※1 空飛ぶクルマとは：明確な定義はないが、「電動」「自動（操縦）」「垂直離着陸」が一つのイメージ。諸外国では、eVTOL（Electric Vertical Take-Off and Landing aircraft）や UAM（Urban Air Mobility）とも呼ばれ、新たなモビリティとして世界各国で機体開発の取組がなされている。モビリティ分野の新たな動きとして、世界各国で空飛ぶクルマの開発が進んでおり、日本においても 2018 年から「空の移動革命に向けた官民協議会」が開催され、2030 年代の本格普及に向けたロードマップ（経済産業省・国土交通省）が制定されている。

引用元：国土交通省（令和 3 年 3 月付）

<https://www.mlit.go.jp/common/001400794.pdf>

引用元：経済産業省（令和 4 年 3 月付）

https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/air_mobility/pdf/008_01_02.pdf

※2 2021 年 10 月「空飛ぶクルマによるエアタクシー事業性調査」に関する当社プレスリリース

<https://skydrive2020.com/archives/7613>

将来の見通しに関する事項

将来の見通しに関する事項は、株式会社SkyDriveの財務状況、経営成績、計画、目的、将来の業績および事業に関する当社の現在の予想および予測を示しています。将来の見通しに関する事項は、歴史的事実または現在の事実と厳密に関連する事項を除き、すべて当該予想および予測に基づくものです。当社が発信するコンテンツ内の、技術情報を含むすべて将来の見通しに関する事項は、リスクや不確定要素を含んでおり、実際の結果が予想と大きく異なる可能性があります。かかる将来の見通しに関する事項は、プレスリリースまたはその他の資料の日付における経営陣の見積もりおよび信念を表すものです。当社は、将来のある時点でかかる将来の見通しに関する事項を変更することができますが、たとえその後の事象によって見解が変更されたとしても、そのような義務を負うものではありません。

≪株式会社 SkyDrive 概要≫

設立	2018年7月
代表者	代表取締役 CEO 福澤知浩
URL	https://skydrive2020.com/
所在地	豊田本社：愛知県豊田市挙母町 2-1-1 豊田開発センター：愛知県豊田市西中山町山ノ田 20-2 豊田テストフィールド：愛知県豊田市足助地区 東京オフィス：東京都新宿区 大阪オフィス：大阪府大阪市北区梅田 1-3-1-800 号 大阪駅前第 1 ビル 8 階
事業内容	「100年に一度のモビリティ革命を牽引する」をミッションに、「日常の移動に空を活用する」未来を実現するべく、2018年7月に設立、「空飛ぶクルマ」及び「物流ドローン」を開発しています。「空飛ぶクルマ」の開発においては、国内で唯一、有人飛行試験を実現し、官民協議会の構成員として制度設計にも関与しております。「空飛ぶクルマ」は、現在2人乗りの機体を開発中、2025年に大阪ベイエリアでのサービス開始を目指しております。30kgの荷物を運搬可能な「物流ドローン」は、山間部を中心とした作業現場で活用いただいています。

本件に関するお問い合わせ

株式会社 SkyDrive

広報担当 大石：070-2246-8375

広報責任者 宮内：090-7226-6704

Email: info@skydrive.co.jp